

○グループワーク○
住まい支援に関する具体的ケースの検討

以下のような事例について、どのような事業・制度・地域資源の活用により対応することが考えられるでしょうか。

本日のグループワークでは、自治体・担当分野の枠を超えてグループを構成しています。各自治体における地域資源を活用した支援体制や各担当分野における制度・支援事業等を共有いただいた上で、本事例について、グループで対応方針を検討してみてください。

対応方針については後ほどいくつかのグループから発表いただく時間を設けていますので、積極的な議論をお願いします。

〈事例〉

【40代男性、单身、2LDKの賃貸アパートに一人暮らし】

- 父は本人が18歳の頃に亡くなり、1ヶ月前まで78歳の母と同居をしていた。
- 母の年金額は不明だが、生活に余裕がある状況とは言えず、ぎりぎりの生活をしていたのではないと思われる。
- 本人は高卒で就職活動をしたが、当時は就職氷河期だったこともあり就職活動がうまくいかず、また、従来からの対人関係の不安からアルバイトを転々とする働き方を続け、現在も同様の状況である。本人によると、仕事に困ったことはなく、何らかの仕事が来ている状況であり、平均して毎月15万円程度の収入があるとのことだが、コロナの際には一時的に仕事なくなり特例貸付を利用していたこともあった。
- 1ヶ月前、母が2日間ほど食事をとっていないことを近所の人が発見し、市役所へ通報。高齢者虐待の疑いがあること、また、健康状態も悪化していたことから、入院となった。軽度の認知症の疑いもあり、母の今後の生活についても決まらないままの状態であるものの、本人と連絡が取れず、病院も困っている状況。
- 本人と母の関係性は、没交渉であり、同居の事実はあるものの、金銭面も含め生活は別々だったため、本人には虐待という認識はなかった。
- 母が入院した後も本人は自宅に住み続けているものの、母も本人も家賃を支払わず滞納している状況であり、強制退去の勧告を受けている。また、税金も滞納しがち。アルバイトの収入を何に使っているか不明だが、月末には手元に残るお金はなく、家賃も払えないという。
- 家はゴミ屋敷化しており、本人と近隣住民とのトラブルも度々生じている。大家から説得を試みるも意思疎通がうまくいかない。
- 近くには低廉な家賃の物件はなく、公営住宅に応募しても抽選で外れる。原状回復費用も考慮すると転居費用が不足。また、高齢の母親がいるのみで頼れる親戚もいないため、保証人や緊急連絡先も確保できない。

〈対応方針〉

〈メモ欄〉

ご自身の自治体における地域資源や、活用が可能な制度・支援事業等を書き出す際等に活用ください。

〈振り返り欄〉

グループワークを通して気づいた点、住まい支援に当たり日常の業務において悩んでいること、相談・共有したいこと等について書き出す際に活用ください。